

# “支援者エンパワメント塾”

10月・11月・12月の土曜日に開講！3回通して、よくよく分かってほしい方へ。

- 期日 ①10月11日 ②11月1日 ③12月6日・午後6時（開場15分前）
- 定員 100名（定員になり次第締切り）
- 会場 大阪市民交流センターひがしよどがわ（JR新大阪駅・東出口から徒歩5分。）
- 受講対象 知的（発達）障害者の支援にかかわる方、並びに本テーマに関心のある方
- 受講料 6,000円（資料代込み）
- 申込先： Fax 06-6320-6068 ・Eメール npoepo@nifty.com

\*名前・所属・連絡先など記入してFAX・メールにてお申込みください！



## <「支援の限界？」に挑む>

### 第1回 10/11（土）pm6～

\*「不安をアピールする」：知的障害・自閉症の女性

入所施設6年で問題行動が出はじめて在宅後、日中活動の場へ：作業は速く正確だがメンバーとの関わりは薄い。仕事がなくなると不安定になり、飛び出し行方不明になる。警察や店に飛び込み事業所に電話させる。GH生活へ：暴れたり、物を隠したり、トイレを詰まらせたりして不安をアピールする。衣服・食事・場所・物・人へのこだわりがあり、情緒不安定時に人をたたく。攻撃的な行動に走るため労災ケースが多発、飛び出しや物の紛失も頻発、対応を迫られる状態が続く。憎めない性格もあり、ついついペースに乗せられ、苦笑いをしつつ悩みつつの毎日。

支援者（ういす守口） / 堀 智晴（インクルーシブ（共生）教育研究所所長）

### ■第2回 11/1（土）pm6～

\*「なんか不安・・・」：知的障害のある女性

不安定な状態になると、走る、飛び出す、噛む、人に対しての執着が強くなる。直接関わる介助者が続かず、減り、限られてしまっている。暴れてしまう自分を「もう嫌や・・・」というが、不安定な状態は繰り返されている。

ヘルパーとのマンツーマンの関係、グループホームでの集団での関係、いずれも自分たちの力量の限界を感じている。現在、精神病院に入院中。退院後の地域生活を支援するために何をどうしたらよいかわからない。

川西 里枝（ヘルプセンターじゃんぷ）・藤島 由香（生野みんなの家）



### 2/6（土）pm6～

\*「ままならない自分にどう付き合うか」

浜田 寿美男（奈良女子大学文学部名誉教授・立命館大学特別招聘教授）

\*トークの場「これまでの提起から—支援と関係性を考える」

浜田寿美男さんを囲んで：登壇者（1・2回）&参加者

- \*「大阪市民交流センターひがしよどがわ」のアクセス：①JR新大阪駅からの場合：駅構内「東出口（西淡路方面）」から階段を下りる。専門学校を右手にまっすぐ進んだ後公園を右に曲がった先が当センター。（エレベータ利用の方は「東中島方面」から下りた後、駅の下をくぐり抜けて西淡路方面へ向かう）
- ② 地下鉄御堂筋線新大阪駅からの場合：ホーム中央C階段を下り、5号出口からJR新大阪駅東出口まで来て①に進む。